



# ICT Solutions



特集：ICTソリューション事業の推進

## 株主の皆様へ

### 第27期中間報告

2023年4月1日～2023年9月30日

#### CONTENTS

- 1 Business Outline
- 2 トップメッセージ
- 3 Financial Review
- 5 セグメント別概況
- 7 特集：ICTソリューション事業の推進
- 9 シリーズ：拠点探訪(第13回) 三井化学EMS株式会社
- 11 Topics
- 13 コーポレート・ガバナンス
- 14 中間連結財務諸表
- 15 株式の状況／株式事務のお知らせ

**三井化学株式会社** 証券コード：4183



## Life & Healthcare Solutions

### ライフ&ヘルスケア・ソリューション

いのちと健康、豊かなくらしに貢献するソリューションを提供し、生活の質(QOL)向上と安全・安心な食の提供に貢献する。



## ICT Solutions

### ICTソリューション

『ユニーク』なICTソリューション事業を創造・拡大し、安全・快適なインフラ、健康なくらし、持続可能な地球環境を支えるAI、Beyond 5G等の進化に貢献する。

# Business Outline

価値創造のための基本戦略を実行すべく、4つの事業ポートフォリオを設定しています。  
グループの強みを活かした投資戦略を展開し、VISION 2030の達成を目指します。



## Mobility Solutions

### モビリティソリューション

特徴のある材料・機能・サービスの提供により社会課題解決に貢献し、持続的な事業成長を実現する。



## Basic & Green Materials

### ベーシック&グリーン・マテリアルズ

再構築を完遂するとともに、環境負荷の低減、脱炭素社会の実現を目指し、全社サーキュラーエコノミー変革をリードする。



トップメッセージ

## VISION 2030で掲げた基本戦略を 着実に実行してまいります。

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

2023年度上半期の業績は、コア営業利益が前中間期比356億円減の420億円となりました。これは、需要の低迷による販売数量の減少等によるものです。

中間配当につきましては、既に公表しているとおり、70円(前中間期比10円増に相当)とします。引き続き、株主還元の実現に努めてまいります。

2021年に長期経営計画「VISION 2030」を発表して以来、ロシアのウクライナ侵攻、中東紛争の勃発といった地政学リスクの高まりや、中国・欧州の景気の停滞、金利動向の変化等、経営を取り巻く環境はグローバルレベルで時々刻々と変化しています。そして、当社グループの100年以上に亘る歴史の中においても、1912年に始まった第一世代の石炭化学、第二世代の石油化学を経て、今まさに、化石燃料からの原料転換や環境負荷低減等を目指す第三世代と呼ぶべきグリーンケミカルへの大きな変革期を迎えています。

こうした状況の中でも、当社グループは、サステナブルな社会への貢献を目指し、VISION 2030で掲げた基本戦略を着実に実行してまいります。

株主の皆様におかれましては、何卒倍旧のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 橋本 修

# Financial Review

2023年度中間期  
フィナンシャルレビュー

2030年に向けて戦略的な投資を行うことにより着実に事業成長を図り、VISION 2030の経営目標の達成を目指します。

2030  
長期経営目標

コア営業利益 2,500億円

親会社の所有者に帰属する  
当期利益 1,400億円

目標達成のための  
投資

成長投資 1.8兆円(2030年度まで)  
内、戦略投資枠 9,000億円  
自力成長投資 9,000億円

株主還元方針

- ① 配当と自己株式の取得により、総還元性向 **30%**以上を目指す
- ② 配当に関しては、親会社の所有者に帰属する持分に対する分配率(DOE) **3%**以上を目指す

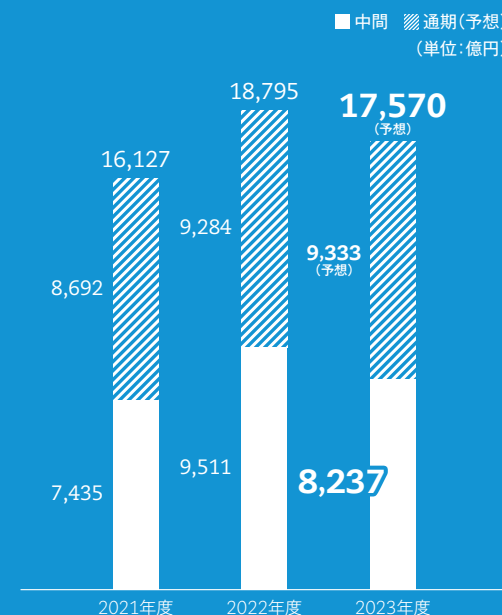
(注)当社は2020年度より国際財務報告基準(IFRS)を適用しております。

●コア営業利益は、営業利益から非経常な要因(事業撤退や縮小から生じる損失等)により発生した損益を除いて算出しております。

## 売上収益

8,237 億円

前中間期比 1,274億円減



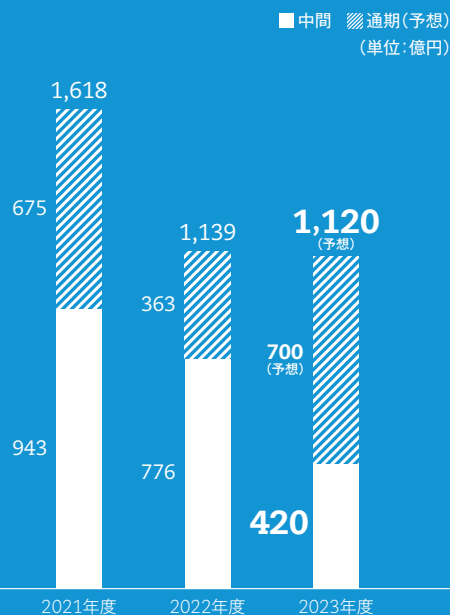
需要の低迷による販売数量の減少や、子会社の売却等により、減収となりました。



## コア営業利益

420億円

前中間期比 356億円減

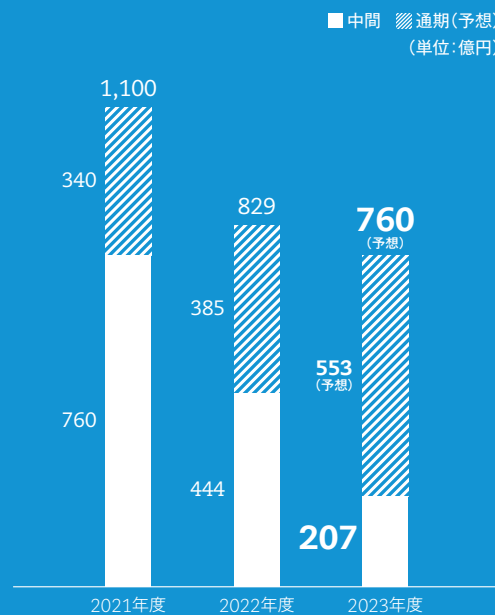


需要の低迷による販売数量の減少や、持分法による投資利益の減少等により、減益となりました。

## 親会社の所有者に帰属する 四半期利益

207億円

前中間期比 237億円減

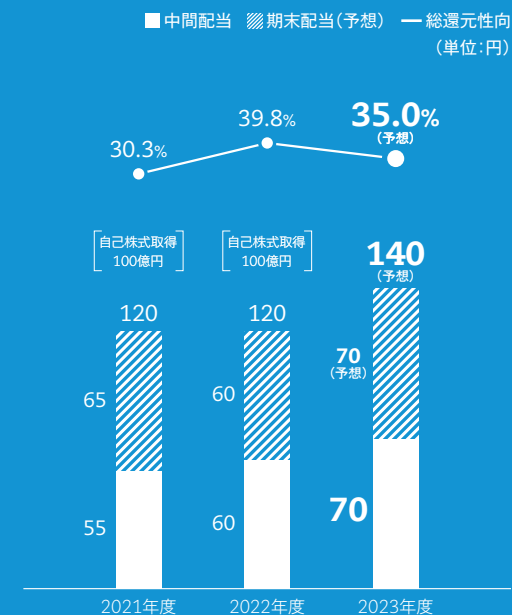


コア営業利益の減少により、減益となりました。

## 株主還元

2023年度  
中間配当 70円

前中間期比 10円増



目下の業績推移を踏まえながらも、株主還元充実化の観点から、前中間期から1株当たり10円の増配とします。

# セグメント別概況



## 事業領域

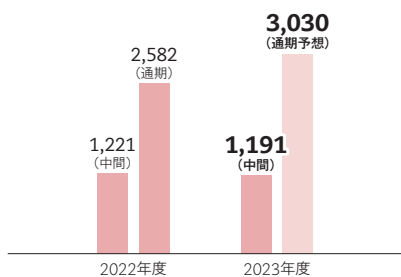
- ライフケアソリューション
- ウェルネスソリューション
- メディカルソリューション

## 製品例

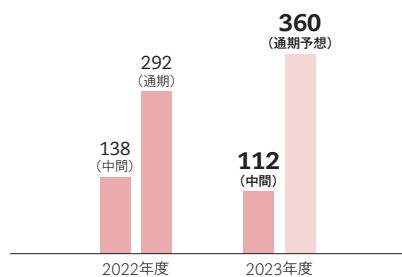
農業化学品



売上収益 (単位: 億円)



コア営業利益 (単位: 億円)



## 概況

- ▶ ビジョンケアのメガネレンズ用材料は、在庫調整の影響により、販売が低調に推移しました。
- ▶ オーラルケアは、販売が前年同四半期並で推移しました。
- ▶ 農業化学品は、海外の販売が堅調に推移しました。



## 事業領域

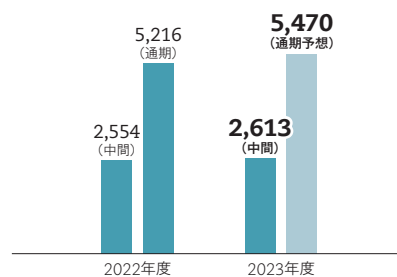
- 素材提供型ビジネス
- ソリューション型ビジネス

## 製品例

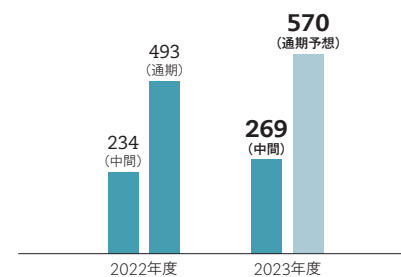
樹脂改質材  
タフマー®



売上収益 (単位: 億円)



コア営業利益 (単位: 億円)



## 概況

- ▶ エラストマーは、価格改定及び為替差により取引条件が改善しました。
- ▶ PPコンパウンドは、自動車生産台数の回復に伴い販売が増加しました。
- ▶ ソリューション事業は、試作・開発案件の受注が増加しました。



## ICT Solutions ICTソリューション

### 事業領域

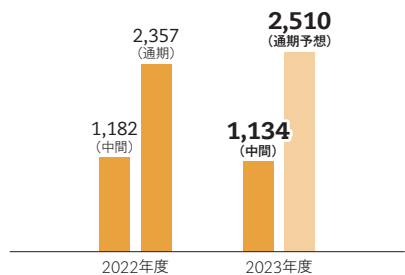
- 半導体・実装ソリューション
- イメージングソリューション
- 電池材料ソリューション
- コンバーティングソリューション

### 製品例

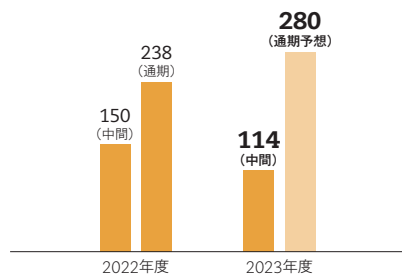
フォトマスク用  
防塵カバー  
三井ペリクル™



売上収益 (単位: 億円)



コア営業利益 (単位: 億円)



### 概況

- ▶半導体・光学材料及び産業用フィルムは、半導体需要鈍化の影響により販売が減少しました。
- ▶コーティング・機能材は、価格改定及び為替差により交易条件が改善しました。



## Basic & Green Materials ベーシック&グリーン・マテリアルズ

### 事業領域

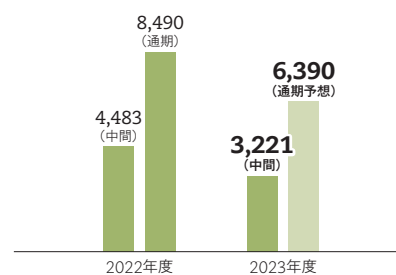
- 石化製品
- 基礎化学品
- ポリウレタン原料

### 製品例

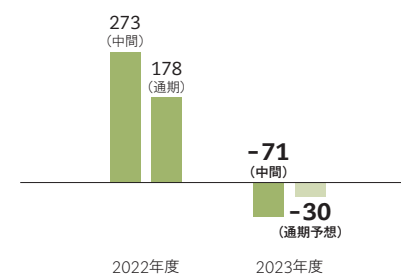
高機能包装材用  
ポリエチレン



売上収益 (単位: 億円)



コア営業損益 (単位: 億円)



### 概況

- ▶ポリオレフィン及びフェノール類の販売は、需要鈍化の影響により、前年同四半期に比べ減少しました。また、ナフサクラッカーの稼働率は、川下製品の需要鈍化の影響を受け、低調に推移しました。

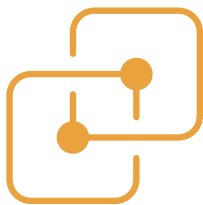
特集:

ICTソリューション  
事業の推進

事業ポートフォリオ変革の追求

# ユニークな素材・ソリューション

## ICT Solutions



ICTソリューション事業は長期経営計画「VISION 2030」において、安全・快適なインフラ、健康な暮らし、持続可能な地球環境を支えるAI、Beyond 5G等の進化に貢献することを掲げています。

成長市場であるICT市場では、スピード感をもってニーズを捉え、機動的に対応することが求められます。2022年4月の事業本部発足から1年強、社内外の連携が進み、様々な開発テーマやシナジーが生まれています。

付加価値の高いユニークな事業を創造・拡大すべく、4つの重点領域である

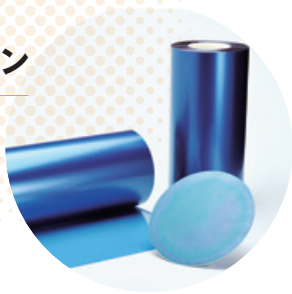
1 半導体・実装、2 イメージング、3 電池材料、4 コンバーティングにおいて積極的にリソースを投入し、既存製品の強化、新製品の開発に加えて、様々なソリューションを提供することで、事業ポートフォリオ変革における第3の柱へ成長させることを目指します。



### 1 半導体・実装ソリューション

半導体や電子部品の製造工程部材である、「イクロステープ™」、「三井ペリクル™」、「SP-PET™」等が主要製品です。

「イクロステープ™」は2023年下期に台湾での能力増強が完了する予定で、拡大する需要に対応していきます。ペリクルは、7月に旭化成から事業を取得し、世界No.1ペリクルメーカーの地位を強固なものにしていきます。(→P.9)



世界シェア  
No.1 半導体製造工程用テープ  
イクロステープ™

Semiconductor &  
Assembly Solutions

### 2 イメージングソリューション

レンズ材料「アベル®」、液晶パネル用反射フィルム材料「TPX®」等が主要製品です。

アベル®は、高い屈折率が特徴の透明樹脂で、スマホカメラレンズに使用されています。

今後は“撮る”から“見る”“センシング”へ、市場成長が見込まれる「XRデバイス」「車載カメラレンズ」の市場拡大に対応した製品開発を進めていきます。



世界シェア  
No.1 環状オレフィンコポリマー  
アベル®

Imaging Solutions



# の提供で第3の柱へ成長を図る



## Blue Value®

### ケミパール® 環境配慮型紙包装材用途

ポリエチレンラミネート紙よりも薄膜化できるため、プラスチック削減に貢献

## Rose Value®

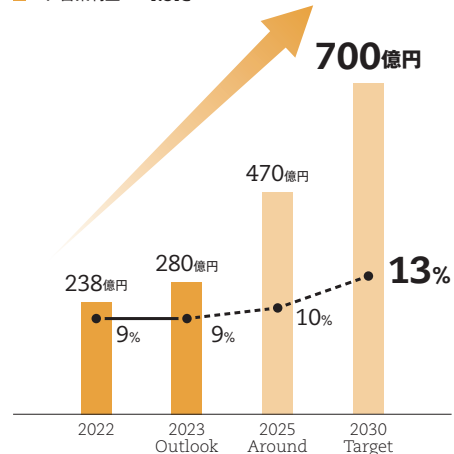
### TPX® 耐熱食品保存容器用途

ガラスのような透明性を持ち、高い耐熱性で電子レンジでも調理ができ、くらしの快適性向上に貢献

三井化学グループが提供する製品・サービスの環境・社会への貢献が見える化したものがBlue Value®・Rose Value®です。

## コア営業利益・ROICの目標

■ コア営業利益 — ROIC



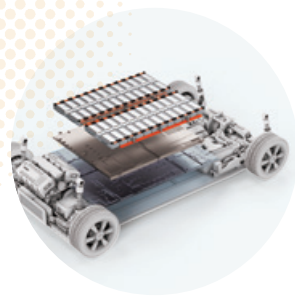
Blue Value®製品  
売上収益比率目標 2030年度 56%

Rose Value®製品  
売上収益比率目標 2030年度 60%

## 3 電池材料ソリューション

リチウムイオン電池材料である電解液「ミレット®」、セパレータ材料「ハイゼックスミリオン®」等が主要製品です。拡大するEV(電気自動車)化に対して、電池の技術変化に応じた素材・ソリューションを提供することで需要に役立てていきます。

また、リチウムイオン電池領域の拡大を図るとともに、次世代電池材料の開発を強化します。



リチウムイオン電池用電解液  
ミレット®

Battery Material Solutions

## 4 コンバーティングソリューション

高機能包材「T.U.X™」、環境配慮型紙包装材用ヒートシール剤「ケミパール®」、食品包装用バリアコーティング剤「タケラック®」等が主要製品です。

特に「ケミパール®」、「タケラック®」については、従来予想を上回るペースで拡大する環境対応ニーズに応えるべく、グローバルに供給能力を拡大していきます。



紙包装材用ヒートシール剤  
ケミパール®

Converting Solutions

# 三井化学EMS株式会社

旭化成株式会社との事業統合で、ペリクル事業世界No.1のポジションを確立。  
動きの速いICT業界の動きを機敏に捉え、事業拡大を目指す。

2023年7月、旭化成よりペリクル事業を引き継ぎ、宮崎県・延岡の地に、三井化学EMSが誕生しました。同社は、半導体の製造工程に使用するDUVペリクル(小型・中型)及び液晶や有機EL等のフラットパネルディスプレイ(FPD)の製造工程に使用するFPDペリクルの製造・開発拠点です。このうち、DUVペリクル(中型)及びFPDペリクルは、三井化学ではこれまで取り扱いのなかった製品です。

旭化成が長年培った材料技術やプロセス技術に三井化学の技術を融合させることで、拡大する半導体領域において顧客に対するソリューション提供力を向上し、「圧倒的」な品質と技術対応力で、ペリクル事業の競争力を高めてまいります。

ICTソリューション事業本部 半導体・光学材料事業部長 宮田 史也

## 三井化学のペリクルラインアップ

[三井化学EMS]

- ▶半導体用のDUVペリクル(小型・中型)
- ▶フラットパネルディスプレイ用のFPDペリクル

[三井化学]

- ▶半導体用のEUV<sup>※</sup>・DUVペリクル(小型)

※スマートフォン等の高機能化に伴う半導体の超微細化に対応



## 地域の中の三井化学EMSとして

三井化学EMSを働きがいのある会社、そして安定的な雇用の確保等を通じて地域経済にも貢献し、存在感のある会社になりたいと思っています。

ここ延岡は旭化成の創業の地であり、事業統合に際しては、前身である旭化成EMSの方々が企業文化や働き方の違いについて不安を抱かないよう特に意識しました。ふたを開けてみれば、双方がすぐに馴染み、シナジー発揮への歩みを着実に進められていると感じます。さらに、三井化学の他拠点との交流の機会等を通じて、一体感を高めていくことを目指しています。

引き続き、三井化学グループのペリクル事業の拠点として、更なる発展を遂げられるよう努めてまいります。

三井化学EMS株式会社 代表取締役社長 裾分 啓士



山と海に恵まれ、自然豊かな延岡市





キーマン  
3人に訊く!

延岡事業所 副事業所長  
槇島 資夫

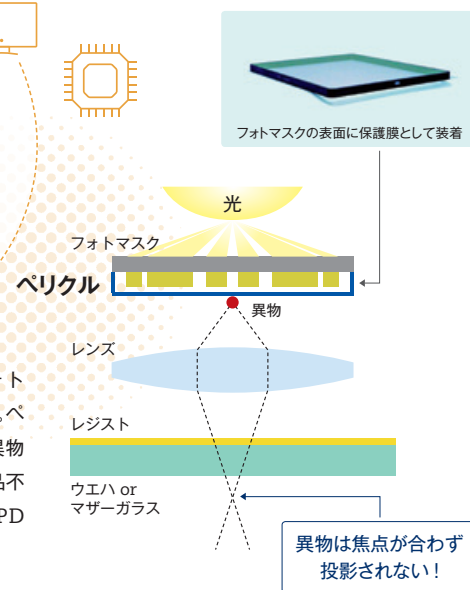
代表取締役社長  
裾分 啓士

延岡事業所 事業所長  
藤崎 満

ペリクルって  
なんだろう?

— MITSUI PELLICLE™ —

半導体やFPDの露光工程で使われるフォトマスクの表面に装着する薄い保護膜です。ペリクルの装着により、フォトマスク上の異物がウエハやマザーガラス上に投影され製品不良の原因となることを防ぎ、半導体及びFPDの生産効率の向上に貢献します。



## ペリクル事業の強みと展望

Q1. 旧旭化成EMSと三井化学、ペリクル事業でそれぞれが築いてきた強みは?

藤崎

ペリクルに求められる技術は、半導体を用いる様々な機器や液晶・有機ELテレビをはじめとしたディスプレイの変遷に合わせて進化し、事業も拡大してきました。

旭化成のペリクル事業は、1986年の事業化以来FPDペリクル市場を牽引し、ディスプレイの急速な大型化を支え、高度な技術と強固な事業基盤で時代をリードしてきました。他方、三井化学は、1984年に岩国大竹工場においてペリクル事業を開始し、スマートフォンの進化等に伴う半導体集積回路(LSI)の高精細化に役立ててきました。現在では、DUVペリクルのリーディングカンパニーとなり、EUVペリクルの国内唯一のメーカーとなっています。

Q2. 三井化学EMS設立から約半年。統合の手応えは?

槇島

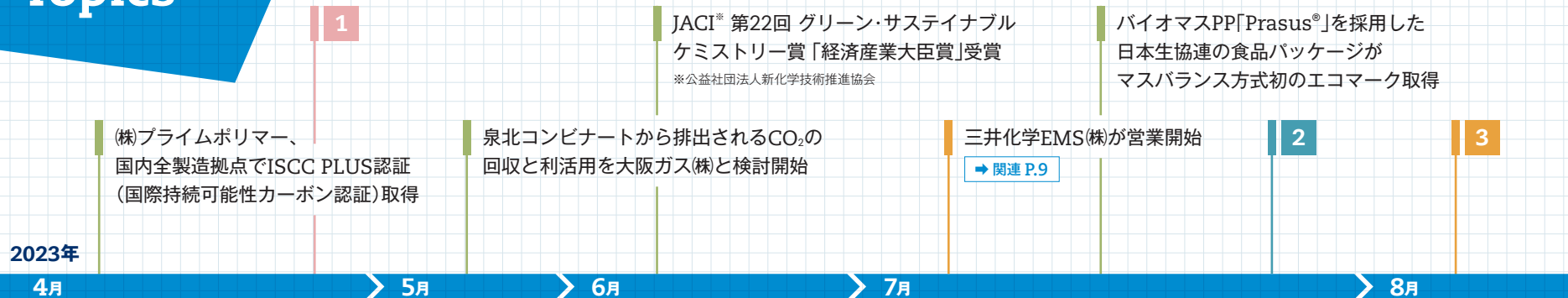
設立以降、R&Dや製造など複数のテーマやメンバー構成で、三井化学の他拠点と工場見学を含む技術交流会を重ねています。旧旭化成EMSには他者を受け入れる社風を感じていましたが、三井化学の文化と似たところも多く、コミュニケーションはととても良好です。他方、技術知見や製造では、同じ工程でもアプローチや細かな手順など異なる点が多く、双方学び合いながらどのような方法が最適か、品質・効率・コストなどを総合的に勘案し、検討を進めています。それぞれが独自の創意工夫で磨いてきた技術を融合することで、今後大きな競争力を生み出せると期待しています。

Q3. どのようなシナジーに期待?

裾分

今回の統合では、両者の強みや資産に重複がないことがポイントで、各種ペリクルの技術知見や製法、自動化生産設備の獲得等あらゆる面で「1+1=2」以上になる効果が期待できます。

今後も5GやAIの普及により、半導体需要は高まります。これに対応すべく、汎用用途に使用されるFPDペリクルの供給力の増強を図り、さらに、両者の技術シナジーの活用で先端技術開発を加速させることにより、DUV(液浸ArF等)を含む注力市場での事業拡大も可能となります。このようにして、三井化学グループのペリクルメーカーとしての地位を強固なものとするべく、貢献してまいります。



(株)プライムポリマー、国内全製造拠点でISCC PLUS認証(国際持続可能性カーボン認証)取得

泉北コンビナートから排出されるCO<sub>2</sub>の回収と利活用を大阪ガス(株)と検討開始

JACI\* 第22回 グリーン・サステイナブルケミストリー賞「経済産業大臣賞」受賞

※公益社団法人新化学技術推進協会

バイオマスPP「Prasus®」を採用した日本生協連の食品パッケージがマスバランス方式初のエコマーク取得

三井化学EMS(株)が営業開始

## 1 歯科用接着材料スーパーボンド®をブラジルで上市



※実際の製品は写真とは異なります。

(株)松風、サンメディカル(株)及び当社は、歯科用接着材料のスーパーボンド®をブラジルにて発売しました。スーパーボンド®は、1982年にサンメディカル(株)が製造販売を開始し、高い接着性と豊富なエビデンスにより海外でも広く臨床現場で使用されています。今回の上市は、三社それぞれの得意分野を生かすことで、材料分野の研究開発、販売・マーケティングや生産機能を強化し、歯科材料市場における存在感を高めてきた、三社業務提携の成果と言えます。

## 2 シンガポールにおけるタフマー®新プラント起工式開催



7月28日、シンガポールにある100%子会社Mitsui Elastomers Singapore Pte. Ltd.の高機能エラストマー「タフマー®」新プラントの起工式を執り行いました。タフマー®は、樹脂の性質を飛躍的に向上させる樹脂改質材、軟質成形材料で、柔軟で軽量な特徴により、太陽電池関連部材、包装資材、自動車用部品など幅広い分野で使用されています。今後もタフマー®の需要は、世界経済の成長やクリーンエネルギー導入の活発化を背景に増加が見込まれており、そのニーズに応えていきます。

## 3 作新工業(株)のニューライト®がアルマ望遠鏡に採用



当社子会社の作新工業(株)の主力製品である超高分子量ポリエチレン成形品ニューライト®が、日本の国立天文台、米国国立電波天文台、欧州南天天文台を中心とする22の国と地域により運用されている電波望遠鏡であるアルマ望遠鏡に新たに搭載される受信機素材として採用されました。樹脂としてはトップクラスで高周波の電波を通すニューライト®の特性を活かし、耐紫外線性をさらに高めて提供することで、アルマ望遠鏡プロジェクトに協力しました。

4

駅で回収したペットボトル活用の  
「えぎPET吸音材」を開発

経済産業省が定める  
「DX認定事業者」に認定

9月

4

## NAGORI®が新型シェーバー 「ラムダッシュ パームイン」に採用



海水から抽出したミネラル成分から生まれた当社の新規複合材「NAGORI®」が、パナソニック(株)の新型シェーバー「ラムダッシュ パームイン」ES-PV6Aの筐体に採用されました。手のひらサイズに5枚刃テクノロジーを凝縮したこの製品は、NAGORI®の特性が発揮された石目調のデザインで、バスルームなどあらゆる場所にインテリアのようになじみます。NAGORI®は熱可塑性樹脂と同様の成形が可能だけでなく、陶器や天然石のような質感や熱伝導性があり、さらに抗菌性・抗ウイルス性も有しています。

## Special Topics

化学企業としての責任と貢献

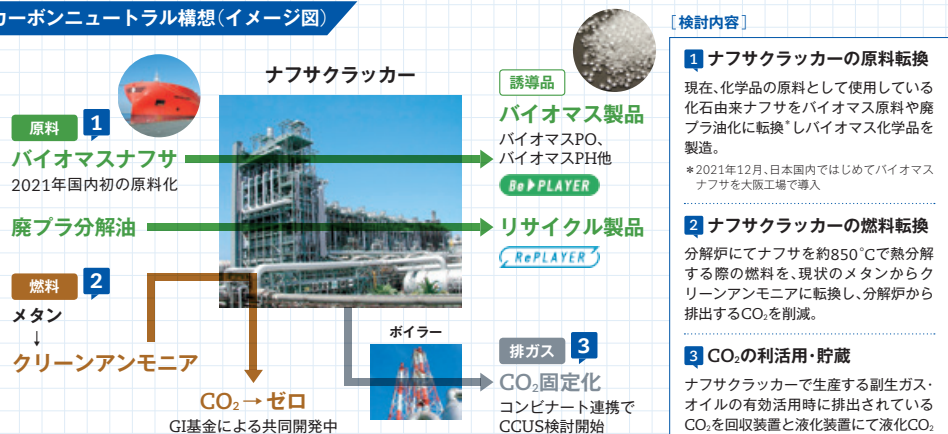
# 「大阪工場カーボンニュートラル構想」 具現化を開始

当社グループは市原工場、大阪工場にナフサクラッカーを保有しています。ナフサクラッカーはあらゆる産業に向けた製品製造の最上流に位置し、社会的に必要不可欠な役割を担う設備ですが、多くのCO<sub>2</sub>を排出します。このため、カーボンニュートラルやサーキュラーエコノミー社会の実現が世界的な潮流となった昨今、当社グループには供給責任を果たすと同時にもう一つの社会的要請であるCO<sub>2</sub>排出量削減への対応が求められています。

その一環として、当社は、当社グループの脱炭素を達成するべく2023年6月に大阪工場(大阪府高石市)をモデルに2030年近傍に実装可能な技術をパッケージ化した「大阪工場カーボンニュートラル構想」を策定しました。他社との連携により、大阪地区におけるナフサクラッカーの燃料・原料の転換、CO<sub>2</sub>の利活用などの検討を進め、構想の具体化を進めてまいります。



### カーボンニュートラル構想(イメージ図)



[検討内容]

#### 1 ナフサクラッカーの原料転換

現在、化学品の原料として使用している化石由来ナフサをバイオマス原料や廃プラ油化に転換しバイオマス化学品を製造。

\*2021年12月、日本国内ではじめてバイオマスナフサを大阪工場を導入

#### 2 ナフサクラッカーの燃料転換

分解炉にてナフサを約850°Cで熱分解する際の燃料を、現状のメタンからクリーンアンモニアに転換し、分解炉から排出するCO<sub>2</sub>を削減。

#### 3 CO<sub>2</sub>の利活用・貯蔵

ナフサクラッカーで生産する副生ガス・オイルの有効活用時に排出されているCO<sub>2</sub>を回収装置と液化装置にて液化CO<sub>2</sub>に変換し、その一部を、コンビナート連携により利活用(CCU)及び地中に貯留・圧入(CCS)。

本構想の実現には大規模な設備投資が必要であり、当社は、適切なナフサクラッカーの生産能力、投資回収見通し等を慎重に見極め、検討を進めてまいります。

# コーポレート・ガバナンス

当社グループは、ステークホルダーの信頼を確保し、企業の社会的責任を全うするため、コーポレート・ガバナンスの充実を経営上の最重要課題の一つと考えています。

## 取締役



取締役 会長  
淡輪 敏



代表取締役 社長執行役員 (CEO)  
橋本 修



代表取締役 専務執行役員 (CTO)  
芳野 正



代表取締役 専務執行役員 (CFO)  
中島 一



取締役 専務執行役員 (CHRO)  
安藤 嘉規

## 独立社外取締役



社外取締役  
吉丸 由紀子



社外取締役  
馬淵 晃



社外取締役  
三村 孝仁

## 監査役



常勤監査役  
久保 雅晴



常勤監査役  
西尾 寛



社外監査役  
新保 克芳



社外監査役  
後藤 靖子



社外監査役  
小野 純司

## 独立社外監査役

社外監査役に  
訊く

## Special Interview

スペシャルインタビュー

社外監査役への就任は2023年6月と日が浅いのですが、三井化学に対しては、とても真面目で誠実な会社という印象を持っています。変革期を迎える化学業界のなかで、何とか新しい分野を切り拓いていこうという強い意志も感じられます。真面目な点はガバナンスに関しても同様で、取締役会では、社外役員の意見も真摯に受け止め、質の高い議論が行われており、資料も説明も大変丁寧に準備されています。しかし、その一方で、全体的に丁寧過ぎる印象もあります。多様で複雑な事業を数多く展開している会社ですので、内容の正確さも大事ですが、もう少しスピードを優先する姿勢を持つべきかもしれません。



社外監査役 後藤 靖子

私には国家公務員として行政に携わった経験や、チャレンジングな民間企業での事業経験があり、現在は、当社以外でも複数の会社で社外監査役も務めています。様々な立場で組織や社会を見てきた経験は、当社の社外監査役という立場でも活かすことができると考えています。ガバナンスの観点や、従業員のモチベーションの観点など、様々な視点から経営や事業を捉え、率直な意見を申し上げることが、私自身の役割だと考えています。

素材メーカーである当社の良さは、外部からは見えにくいところもあるため、「こんなところでも三井化学が活躍している」といったことも外向けにアピールし、もっと多くの人に知ってもらいたいと思います。化学には未来を創る力があると思いますが、明るい未来の実現に向けて化学の力での貢献を目指す当社グループに是非期待して頂ければと思います。

# 中間連結財務諸表

## 連結財政状態計算書

		単位: 億円					単位: 億円		
科目	2023年3月末	2023年9月末	増減	科目	2023年3月末	2023年9月末	増減		
<b>流動資産</b>	<b>10,943</b>	<b>10,825</b>	<b>△118</b>	<b>流動負債</b>	<b>6,954</b>	<b>6,816</b>	<b>△138</b>		
現金及び現金同等物	1,863	2,026	163	有利子負債	3,766	3,529	△237		
営業債権	3,522	3,194	△328	その他	3,188	3,287	99		
棚卸資産	4,419	4,410	△9	<b>非流動負債</b>	<b>4,895</b>	<b>4,932</b>	<b>37</b>		
その他	1,139	1,195	56	有利子負債	4,181	4,196	15		
<b>非流動資産</b>	<b>9,739</b>	<b>10,219</b>	<b>480</b>	その他	714	736	22		
有形固定資産	5,533	5,787	254	<b>負債合計</b>	<b>11,849</b>	<b>11,748</b>	<b>△101</b>		
使用権資産	476	467	△9	<b>親会社の所有者に帰属する持分</b>	<b>7,868</b>	<b>8,313</b>	<b>445</b>		
のれん	193	209	16	資本金	1,256	1,257	1		
無形資産	482	531	49	資本剰余金	577	579	2		
非流動のその他の資産	3,055	3,225	170	利益剰余金	5,751	5,883	132		
<b>資産合計</b> …1	<b>20,682</b>	<b>21,044</b>	<b>362</b>	自己株式	△327	△327	0		
				その他の資本の構成要素	611	921	310		
				<b>非支配持分</b>	<b>965</b>	<b>983</b>	<b>18</b>		
				<b>資本合計</b>	<b>8,833</b>	<b>9,296</b>	<b>463</b>		
				<b>負債・資本合計</b>	<b>20,682</b>	<b>21,044</b>	<b>362</b>		

## 連結損益計算書

科目	2022年 4~9月決算	2023年 4~9月決算	増減
<b>売上収益</b>	<b>9,511</b>	<b>8,237</b>	<b>△1,274</b>
<b>コア営業利益</b>	<b>776</b>	<b>420</b>	<b>△356</b>
非経常項目	△51	△108	△57
<b>営業利益</b>	<b>725</b>	<b>312</b>	<b>△413</b>
金融収益・費用	△18	18	36
<b>税引前四半期利益</b>	<b>707</b>	<b>330</b>	<b>△377</b>
法人所得税費用	△221	△87	134
<b>四半期利益</b>	<b>486</b>	<b>243</b>	<b>△243</b>
非支配株主に帰属する四半期利益	△42	△36	6
<b>親会社の所有者に帰属する四半期利益</b>	<b>444</b>	<b>207</b>	<b>△237</b>

## 連結キャッシュ・フロー計算書

科目	2022年 4~9月決算	2023年 4~9月決算	増減
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b> …2	<b>219</b>	<b>858</b>	<b>639</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b> …3	<b>△140</b>	<b>△355</b>	<b>△215</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b> …4	<b>55</b>	<b>△452</b>	<b>△507</b>
その他	137	112	△25
<b>現預金等増減</b>	<b>271</b>	<b>163</b>	<b>△108</b>

## 連結包括利益計算書

科目	2022年 4~9月決算	2023年 4~9月決算	増減
<b>四半期利益</b>	<b>486</b>	<b>243</b>	<b>△243</b>
<b>その他の包括利益</b>	<b>363</b>	<b>384</b>	<b>21</b>
<b>四半期包括利益</b>	<b>849</b>	<b>627</b>	<b>△222</b>
(内訳)			
親会社の所有者	759	556	△203
非支配持分	90	71	△19

## POINT

### 1 資産合計

主に、円安の進行に伴って在外連結子会社の資産の円貨換算額が増加したことなどによるものです。

### 2 営業活動によるキャッシュ・フロー

税引前四半期利益の悪化があったものの、運転資本が減少したことなどによるものです。

### 3 投資活動によるキャッシュ・フロー

主に、設備投資による支出が増加したことなどによるものです。

### 4 財務活動によるキャッシュ・フロー

主に、有利子負債が減少したことなどによるものです。

## 株式の状況 (2023年9月30日現在)

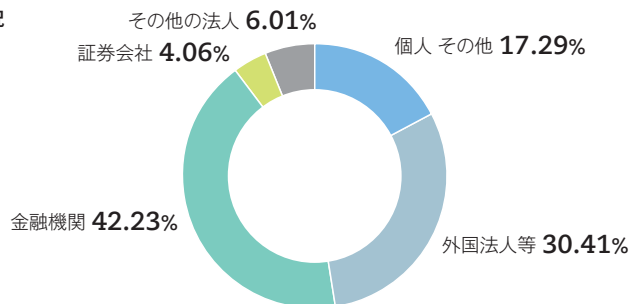
発行可能株式総数	発行済株式総数	株主総数
600,000,000株	200,843,815株	70,202名

### 大株主(上位10名)

氏名又は名称	所有株式数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	33,147	17.43
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	20,684	10.87
STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234	3,476	1.82
三井物産株式会社	3,474	1.82
株式会社日本カストディ銀行 (三井住友信託銀行再信託分・三井物産株式会社退職給付信託口)	3,474	1.82
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505025	2,736	1.43
三井化学取引先持株会	2,708	1.42
株式会社かんぽ生命保険	2,642	1.38
株式会社三井住友銀行	2,600	1.36
農林中央金庫	2,546	1.33

(注)当社は、10,702,408株の自己株式を保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

### 所有者別株式分布状況



(注)「個人 その他」には、当社の自己株式としての保有分(5.33%)が含まれております。

## 株式事務のお知らせ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当受領株主確定日	3月31日
中間配当受領株主確定日	9月30日
基準日	定時株主総会については、3月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告する一定の日
定時株主総会	6月
公告方法	電子公告
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱所 (郵便物送付先) (電話お問合せ先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 フリーダイヤル 0120-782-031
同取次窓口	三井住友信託銀行株式会社 全国各支店
単元株式数	100株
上場証券取引所	東京証券取引所 プライム市場 証券コード:4183

IRサイトのご案内 <https://jp.mitsuichemicals.com/jp/ir/index.htm>

決算に関する情報など  
最新の企業情報につきましては、  
当社IRサイトでご覧いただけます。

三井化学 投資家

検索



当社が採用されている主なESG投資インデックス  
(2023年8月時点)



2023 CONSTITUENT MSCI JAPAN  
ESGセクター・リーダーズ指数

2023 CONSTITUENT MSCI 日本株  
女性活躍指数 (WIN)



〒104-0028 東京都中央区八重洲二丁目2番1号 東京ミッドタウン八重洲 八重洲セントラルタワー  
TEL 03-6880-7500 URL <https://jp.mitsuichemicals.com/jp/>

(注)本資料に掲載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、掲載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証したりするものではありません。

